

## 佐賀大会を振り返って

佐賀大会副実行委員長 岩崎 達義

第12期の全国統一研究主題「未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」の第2年次の全国研究大会を、全国から多くの副校長先生、教頭先生方を佐賀の地にお招きして開催するため、3年前から準備を進めて参りました。ところが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、従来の「参集型」を断念し、「オンライン形式による大会」という方法を模索し、変更せざるを得なくなりました。

初めての試みでもあり、実際にウェブ会議システムを用いることで大会ができるのかどうか不安でいっぱいでしたが、結果は2日間でのべ3,500名を超える全国の副校長先生、教頭先生方に参加いただき、分科会では提言テーマについて熱心な意見交流をおこなうことができました。

1日目の講演では、前広島東洋カープ監督の緒方孝市様に「組織を活かすマネジメント」という演題で記念講演をしていただきました。セ・リーグで25年ぶりの優勝、そして3連覇までの道のりを、プロ野球監督としてのお立場で、熱く明快にお話ししていただきました。会員の皆様のアンケートからは、「もっと聞きたかった」「勇気をいただいた」などの言葉、感想をたくさんいただきました。午後のシンポジウムでは、佐賀県出身の4名の皆様に「高い志 豊かな心 切り拓く未来」をテーマに、それぞれのお立場から、テーマに沿ったご示唆に富む貴重な御意見を拝聴することができました。和やかな雰囲気の中にも、私たち副校長・教頭が学校運営を担う立場や役割から深く考えさせられるとても豊かな時間となりました。

2日目の分科会では、ウェブ会議システムを利用し、双方向での話し合いを行いました。私たちにとって最大の難関であったグループ協議の時間は、佐賀県教頭会会員の技術のブラッシュアップが功を奏し、何とか計画通りに実施することができました。全国の会員の皆様と直接会うことはできなかったものの、閉会式後画面越しに全員で手を振り、お互いの頑張りをたたえ合えた時には、“やってよかった”“心が通じ合えた”という温かい気持ちになりました。

一昨年の滋賀大会の視察、昨年、残念ながら中止になった岡山大会を受け、オンラインによる大会の決定、前例のない大会準備と、役員で何度も頭を抱え、話し合いを繰り返してきました。振り返ってみればその全てが無駄ではなかった、逆にどれかが欠けていても成し遂げることができなかつたように思います。『ピンチはチャンスに変えられる』『一人では成し得ないことでも仲間がいればできる』ということ、本大会を通して学ぶことができたものと強く感じています。

今回の大会で記念講演をしていただきました緒方 孝市様、シンポジウムコーディネーターの富吉賢太郎様、シンポジストの中島 潔様、坪田 信貴様、竹下 真由様、そして全国各地で研究実践を積み重ねて御提言いただきました各単位教頭会の提言者の方々、そして、大会を物心両面から支えていただいた全公教本部の皆様、顧問会の皆様に、心よりお礼申し上げます。

さて、来年の岩手大会では、生活が平常に戻り、再び全国の仲間が参集して「魅力ある学校づくり」について語り合える全国大会が開催されることを切に願っています。

最後になりましたが、令和3年度全国公立学校教頭会研究大会佐賀大会の実施に向けて、これまで多忙な業務の合間を縫って各部・各担当で御尽力いただきました県内外の全ての皆様、学映システム様、西日本企画サービス様、長年、佐賀県公立学校教頭会に御尽力いただきました事務局員の副島いずみ様（令和3年5月逝去）に対しまして、佐賀大会実行委員一同、心より厚く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。